「日本から世界へ」

早稲田大学理工学術院総合研究所招聘研究員
溝口 明則

長岡造形大学教授 / 学長
平山 育男

東京都江戸東京博物館研究員
米山 勇

早稲田大学准教授
小岩 正樹

シンポジウム

建築史 世界往還の課題

－早稲田建築の現在－

基調公演「早稲田 . 建築史 . 建築 . 世界」

早稲田大学名誉教授・博物館明治村館長
中川 武

全体討論ゲスト・滋賀県立大学名誉教授
布野 修司

早稲田大学教授
中谷 礼仁

サイバー大学教授
小野 邦彦

文化庁建造物課文化財調査官
井川 博文

早稲田大学イタリア研究所招聘研究員
奥田 耕一郎

開催日時
2026/11/28(土)
13:00 開場
13:30 開始

会場
早稲田大学
西早稲田キャンパス
57 号館 201 教室

参加無料・入退場自由・書籍販売有

「世界から日本へ」

プログラム

司会・進行：伏見　唯（伏見編集室）

13:00　開場

13:30　趣旨説明・基調講演「早稲田 . 建築史 . 建築 . 世界」
中川　武（早稲田大学名誉教授・博物館明治村館長）

13:50　セッション 1 「日本から世界へ」
溝口　明則
［ 建築史学の横断的視点を求めて ］
平山　育男
［ 釘を巡る世界戦略 ］
米山　勇
［ 明治初期の擬洋風建築が持っていた「独自性」について〜第一国立銀行と開智学校が示したもの〜 ］
小岩　正樹
［ 建築架構と空間の展開 ］

15:10　セッション 2 「世界から日本へ」
中谷　礼仁
［ 大地・かたち・共同体　生産史からの拡張 ］
小野　邦彦
［「中心」の顕示と秘匿−「亜周辺」におけるインド文化受容をめぐって− ］
井川　博文
［ 文化財の価値と周辺−保存理念の受容と変容 ］
奥田　耕一郎
［「文化遺産」としてのイタリア・ファシズムの建築　その保存と活用における目的と理論 ］

16:30　講演者全員による全体討論
論点整理　　中川　武
特別ゲスト　布野　修司（滋賀県立大学名誉教授）

17:15　閉会

早稲田大学における建築史研究は、学科創設期の佐藤功一、伊東忠太らにはじまります。彼らは日本および西洋の古典建築の研究から出発し、後進たちが世界のさまざまな時代・地域へと研究の領域を拡大させながら、現在の活動へと継承されてきました。近年では、『世界宗教建築事典』（東京堂出版）や『世界建築史ノート』（東京大学出版会）、『世界 宗教 建築史』シリーズ（丸善）、『韓国「かたち」紀行』（草思社）などの出版を通じて、出身研究者たちの活動を報告しています。

いま、これらの書籍をあらためて手に取るとき、それぞれに活動を展開する研究者間で世代を超えて共有され、受け継がれてきた、知的探求の基盤のようなものがみえてきます。それは、日本建築との比較のなかで明瞭になる世界の建築文化、世界の建築を知ることでふたたび対象化される日本、などといった、地域と建築をめぐる思考の往還として捉えられるものです。

今回のシンポジウムでは、日本、アジア、ヨーロッパを研究の主なフィールドとしてきた、早稲田大学建築史研究室の出身者を集め、これまでの研究活動や文化財保存の実務について、その着想の原点や展開の過程を中心に話を聴いていきます。これを通じて、「早稲田建築」の一端を担う意思の疎通や理念の共有がどのように図られてきたかを探り、日本および世界の建築と歴史、これらを取り囲むこんにちの複雑な状況の理解へと、議論を展開していきたいと考えています。早稲田建築、日本、そして世界をつなぎつつ、建築史の立場から世界に貢献するためのヴィジョンを探る機会とできれば幸いです。

主催　早稲田大学創造理工学部小岩正樹研究室
後援　早稲田大学ユネスコ世界遺産研究所　早稲田大学イタリア研究所　稲門建築会　GREEN WIND ASIA